

令和6年度

第2回 学校評価アンケート 集計結果



長門市立神田小学校

令和6年度 第2回学校評価【全体比較による分析】

| | 項 目 | 児童 | 保護者 | 地域 | 教職員 | 平均 |
|---------|--------------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| チャレンジ目標 | 「気持ちのよいあいさつ！めざせレベル5！」 | 85.8 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 96.5 |
| | 「時間を守ろう！開始や集合！」 | 85.7 | 85.7 | 91.7 | 100.0 | 90.8 |
| | 「やさしくかかわろう！言葉や行動！」 | 85.7 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 96.4 |
| 学校生活 | めざす学校像について | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| | 学習内容の理解 | 100.0 | 85.7 | 83.3 | 100.0 | 92.3 |
| | 主体的な学び | 71.4 | 100.0 | 83.4 | 100.0 | 88.7 |
| | 自分の考えをもち、伝えている | 71.4 | 100.0 | 91.7 | 100.0 | 90.8 |
| | 先生や友だちの話をよく聞いている | 85.8 | 85.7 | 91.7 | 100.0 | 90.8 |
| | 友だちと仲良くしている | 85.7 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 96.4 |
| | いじめやトラブルの未然防止、早期対応 | 85.7 | 100.0 | 91.7 | 100.0 | 94.4 |
| | 授業や学校行事等に地域の力を生かしながら教育活動を進めている | 85.7 | 100.0 | 100.0 | 75.0 | 90.2 |
| 家庭生活 | 家庭学習への取組 | 100.0 | 85.7 | — | 75.0 | 86.9 |
| | 自主学習への取組 | 100.0 | 57.1 | — | 75.0 | 77.4 |
| | 体力づくりへの取組 | 100.0 | 85.7 | — | 100.0 | 95.2 |
| | 交通安全（道路歩行、自転車の乗り方） | 100.0 | 100.0 | 91.7 | 100.0 | 97.9 |
| | 家庭での挨拶 | 100.0 | 100.0 | — | — | 100.0 |
| | 地域行事への参加 | 85.7 | 100.0 | 91.7 | — | 92.5 |
| | メディアに関わる約束 | 85.8 | 57.1 | — | — | 71.5 |

※肯定的評価の割合（「わからない」も割合に含めて算出しています）

全体分析と今後の取組について

【チャレンジ目標について】

① 気持ちのよいあいさつ（※日置みずぐ学園重点取組事項）

・高い肯定的評価を維持しており、あいさつをすることが習慣となっていることが伺える。学校に来客があったときにも、自分から進んであいさつをすることができる児童が多い。気持ちのよいあいさつが明るい学校の雰囲気へとつながっている。日置みずぐ学園で取り組んでいるあいさつレベルの内容を今一度意識し、素敵なあいさつが交わされる学校、家庭、地域であり続けるようにしていく。

② 「時間を守ろう!開始や集合!」

・前回の肯定率から10ポイントアップしている。特に保護者や地域の方からの肯定的評価が高くなっている。2学期には参観日や行事、校内研修などで学校に足を運んでいただくことが多かった。その際に、児童の時間を意識した行動を見られての評価だと思われる。遊び時間でも時計を見て次の行動に移ることができていた。時間を守るという行動は、状況をよく把握することにつながっている。

③ 「やさしくかかわろう!言葉や行動!」

・よりよい学校生活にしていくためにも大切な目標である。代表委員会において、お互いが気持ちよく過ごすために気を付けたらよいことや実施したらよいことについて話し合い、安心して過ごせる学校を自分たちでつくっていかうとしている。「大丈夫?」と相手を気遣う言葉が日常でもよく聞かれるので、これからも相手のことを考えた言動ができるようによさを価値づけたり、振り返らせたりしていく。

【学校生活について】

① めざす学校像について

・めざす学校像については、1回目に続き今回も評価者全員が肯定的評価をしていた。学校、保護者、地域、教職員にとってそれぞれによさのある学校となっている。児童にとって、「行きたい学校」となることを中心に据え、それにかかわる大人にとっても学校が充実感の得られる場となるようにしていきたい。令和7年度末での閉校が決まったが、神田小学校にかかわる皆さんがよい学校だったと思えるように、今後も力を合わせて教育活動に取り組めるようにする。

② 学習内容の理解

・学習内容の理解については、児童と教職員の肯定的評価が100%であ

った。10月に行った山口県の学力定着確認問題からも概ね学習内容については理解していると考えられる。保護者の肯定的評価についても1回目よりは割合が高くなっている。少人数のよさを生かし、わかる喜びやできる楽しさを感じられる授業づくりを今後も行っていく。

・学力向上プランをもとに、計画的、継続的な取組を進める。朝の学習では、全学年で継続して「やまぐちっ子学習プリント」などの練習問題に取り組み、間違えた問題は必ず解き直すようにする。3学期の後半からは週に1コマほど復習の時間を確保し、担任だけでなく管理職も補助にあたり、学習内容のさらなる定着を図る。

③ 主体的な学習

・今年度は、三つの学年が一人学級のため、自分で見通しをもちながら学習を進めているかという「主体的な学習」についてのアンケートを行っている。今回の児童の肯定的評価の割合は前回より減少している。取り組んでいることが何のためのものなのか、前後の学習とどんなつながりがあるのか、そういったことを捉えながら学習ができると意欲も高まってくる。複式の授業を進めるうえでも、1時間の授業の流れをある程度そろえ、一つの課題が終わったら自分で次に進むことができるようにしていく。

④ 自分の考えを表現している

・この項目については、1回目と同じように児童には「話し合いのときに意見を言っているか」で質問している。児童による肯定的評価は少し下がっているが、「よくできる」を選択した児童の割合は増えている。このことから、積極的に参加できる児童と苦手意識のある児童のいることが伺える。まずは、安心して自分の考えや意見が言える人間関係や場づくりをするとともに、話し方や聞き方のスキルを高めていくようにする。また、話したい、聞きたいと思えるような課題を設定していくことも必要である。

⑤ 先生や友だちの話をよく聞いている

・肯定的評価については高い水準を維持している。しっかり聞くことによって、次の行動が確実になったり、自分の考えを深めたりすることができる。本校では、「聞き方あいうえお」を設け、よりよい聞き方ができるように日ごろから取り組んでいる。④の表現することとあわせて、よい聞き手、よい話し手を授業はもちろん、日常の様々な場面を通して育てていく。

⑥ 友だちと仲良くしている

・全体の平均としては今回も肯定的評価が高かった。行事や集会など全校児童で活動するので、異学年でのかかわりが多い。そのため、違う学年の友達のことを思いやる気持ちが育ちやすい。遊び時間にも学年関係なく一緒に遊ぶことが多い。時にはけんかになったりすることもあるが、それも成長のよい機会としてとらえ、仲良くするためにはどんな配慮が必要

なのかお互いに考えるようにしている。チャレンジ目標とのつながりも意識させていきたい。

⑦ いじめやトラブルの未然防止、早期対応

・この項目は、今年度新たに追加したものである。小規模校といえども、いじめについては、どの子にもどの学校にも起こり得るものという認識をもつ必要がある。今回のアンケートでは、いじめの考え方について児童の中に違いのあることが分かった。いじめとはどんなことなのかを今一度考え、いじめはどんな理由があってもいけないことだという思いをしっかりと育てていく必要がある。今後も、だれもが安心して学ぶことができる明るく楽しい神田小学校であるために、いじめにかかわる問題を自分のこととして考え、自ら行動できる集団づくりに努める。

⑧ 授業や学校行事等に地域の力を生かしながら教育活動を進めている (※日置みずぐ学園重点取組事項)

・この項目については、肯定的評価のうち、「よくあてはまる」の回答が大変多い。2学期には、よりたくさんの方に参加してほしいという思いから、ここ数年では初めて漁村センターでふれあいタイムを行った。めぐみ学級や一日会の皆さんなどの地域の団体のご協力もあり、大変多くの方と交流をすることができた。また、陸上競技や家庭科の指導、特別の教科道徳への参加など授業にもご支援をいただいた。来年度は閉校にかかる行事も実施する予定なので、学校、保護者、地域が一体となってそれぞれに意味のある教育活動を行うことができるようにしていく。

【家庭生活について】

① 家庭学習への取組

・児童、教職員共に前回より肯定率が上がっている。宿題に取り組む時間や場所などが決まっている児童は家庭での学習の習慣が定着していると思われる。「帰ったらすぐに取りかかる」「〇時からは宿題をする」などまずはいつ宿題をするかについて決めて取り組んでほしい。「学年×10分+10分」を基本としているので、寝る前にやろうとすると難しいことが予想される。宿題の意味を繰り返し児童と共有し、やらされるものではなく、前向きに取り組めるようにしていく。

② 自主学習への取組

・自主学習への取組については、児童の肯定的評価は高いが、保護者と教職員の評価は児童ほど高くはない。保護者や教職員が期待する自主学習の内容と児童が実際にしている内容には少し差のあることが伺える。学校ではノート展を開き、全学年で自主学習に取り組んだノートを見合っている。中には、苦手な教科の復習や興味のあることの追究など取り組む内容をしっかり考えながら自主学習をしている児童もいる。友だちの取組のよさを生かしながら自分の学習の質を高めていってほしい。また、自主学習ノートが1冊終わったら校長にノートを提出するようにしているので、その機会を捉えて取組のよさを価値づけていく。

③ 体力づくりへの取組

・本校の重点取組事項に体力向上を入れているので今年度は、児童、保護者、教職員へ体力づくりへの取組についてもアンケートを行っている。学校では、朝の会や体育の準備運動時に柔軟や体力づくりにつながる体操を行っている。その他にも、ミニ体力テストとして昼休みに握力の計測を行っている。年に2回体力テストを実施しているが順調に体力のついてきていることが分かった。今年度の重点取組事項である投力と持久力についても伸びが見られたので、今後も体育や休み時間などを通して体力の向上を図っていく。

④ 交通安全(道路歩行、自転車の乗り方)

・アンケート結果から、交通安全について日ごろから意識していることがよく分かる。2学期の終業式では黄波戸駐在所の白井さん、長門警察署の渡邊さんにお越しいただき、交通安全や不審者対応についての話をいただいた。「止まって左右の確認をする」「自転車ではスピードを出しすぎない」など、今後もKYT学習(危険予測学習等)を行い、安全に対する意識を高くもち、自分の命、他の人の命を大切にできるようにしていく。

⑤ 家庭でのあいさつ

・家庭でのあいさつについては前回と同じように肯定的評価が100%であった。学校、家庭、地域とどこでもあいさつがしっかりできていると言える。元気にあいさつを交わすことでお互いの気持ちが前向きになる。よりよい人間関係づくりは気持ちのよいあいさつからという気持ちで今後もあいさつを続けてほしい。

⑥ 地域行事への参加

・日置地域はもちろん、長門市全域の行事に積極的に参加をしてほしいという思いから、今年度より「長門市や地域の行事、催し事」への参加について尋ねている。日置地域の「ふるさと祭り」やルネッサながとで開催された「ちびなが商店街をつくろう」など、積極的に行事へ参加している姿が伺えた。その影響もあり、今回の肯定的評価は高いものになっている。今後も、案内があったものについては、学校でも紹介し地域行事への積極的な参加を促していく。

⑦ メディアにかかわる約束

・児童による肯定的評価は上がったが保護者による肯定的評価は下がった。児童のとらえ方と保護者のとらえ方に差が見てとれる。日置みずぎ学園でも重点取組事項の一つとしており、各校で「メディアコントロールウィーク」を実施し、メディアにかかわる時間を意識して生活できるようにした。この取組から、メディアへ接する時間がある程度で一定のグループとかなり多い時間のグループに二極化していることが伺えた。日本小児科医会によると、すべてのメディアに触れる時間は「全部で1日2時間まで」を目安とするとよいと提言されている。それは心身の健康面や発達、学力などとの関連があるからだと考えられる。引き続き児童への指導や家庭への啓発を行い、学校、家庭で連携してメディアとのかかわりがよりよいものとなるようにしていく。

自由記述より

【 保護者 ・学校運営協議会委員】

- ・ 少人数だが、7人が力を合わせてよく頑張っていると思う。
- ・ 言葉遣いがもう少しいいとよい。
- ・ 教職員も児童もよりよい学校であるように取り組んでいると感じる。
- ・ 学校へ行くと先生から子どもの様子を伺うことが多く、本当によく子どもとかわっていらっしゃることを感じる。
- ・ 以前の子どもの様子と今の子どもの成長ぶりなど細やかな視点で見守って頂き感謝している。いつまでも子どもとかわって頂きたいと思っている。